

月	4		5		6		7		8		9				
	旬	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
普通期	生育期間	は種		育苗		田植	活着期	有効分け時期	無効分け時期	幼穂形成期		出穂期	穂揃期	登熟期間	成熟期
	主な作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レンゲすき込み(基肥)</li> <li>・温湯消毒</li> <li>・土壌改良資材施用</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・箱施薬①</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・田植 (6/5 ~ 6/10)</li> <li>・除草剤処理②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落水 (半日~1日程度干す)</li> <li>・除草剤散布後7日頃</li> <li>・ガス抜き</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中干し</li> <li>・溝切り</li> <li>・最高分け時期</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・穂肥 (出穂前28~25日)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・穂いもち病防除時期③</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・穂揃期防除④</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫</li> </ul>			
水管理: 除草剤散布後7日頃落水(ガス抜き)を行い、根の機能促進と分けつ促進を図ります。													<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫適期 (黄褐色粉70~80%)</li> <li>・収穫早限 黄褐色粉比率70% 粉水分28%</li> <li>・収穫晚限 黄褐色粉比率80% 粉水分24%</li> <li>・適期収穫に努めましょう。</li> </ul>		

### 主な雑草及び害虫

コナギ

ホタルイ

アゼナ

ミニアオカメムシ

**斑点米カメムシ類対策**  
出穂10日前までに、カメムシ類の居場所となる、畦畔・草ムラの除草を徹底して、圃場への侵入をふせぎましょう。

### 穂肥の診断

穂肥時の稲姿と幼穂長

・穂肥は葉色をみて量を加減する。  
・穂肥は出穂前(幼穂長2~3mm)頃使用する。

#### ①箱施薬 次のいずれか1つを選択

名称	使用量	使用時期	対象病害虫
防人箱粒剤	1箱あたり50g	播種時(覆土前)	いもち病、ウンカ類、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ
フルストット箱粒剤 ※紋枯病に効果あり		移植当日	いもち病、ウンカ類、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ、紋枯病

※育苗センターの苗(夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリ)は箱施剤(防人箱粒剤)入りです。  
田植前に箱施薬を散布する必要はありません。

#### ③穂いもち病防除 次のいずれか1つを散布

名称	10aあたり使用量	使用時期	対象病害虫
ダブルカットバリダフロアブル	希釈倍率1000倍 散布液量60~200ℓ	穂揃期まで	カメムシ類、ウンカ類
ビームソル	希釈倍率1000倍 散布液量100~150ℓ	収穫7日前まで	
ビーム粉剤DL	3~4kg	出穂5日前まで (収穫30日前まで)	
ゴウケツ1キロ粒剤	1kg	穂いもちに対して出穂30日前~5日前まで	
ゴウケツパック	10パック		
コラトップ豆つぶ	250g		

※穂いもち病防除時期: 「ゴウケツは、穂ばらみ期(出穂5日前)まで」「液剤・粉剤は出穂直前」に散布する事が重要です。

#### ②除草剤使用基準 次のいずれか1つを散布

種類	名称	10aあたり使用量	使用時期
粒剤	キマリテ1キロ粒剤	1kg	田植時~10日 (ノビエ3.0葉期まで) ※田植同時処理可
	ガンガン1キロ粒剤		
フロアブル	キマリテフロアブル	500ml	
ジャンボ	キマリテジャンボ	10パック	田植直後~10日 (ノビエ3.0葉期まで)
豆つぶ	ガンガン豆つぶ250	250g	田植後3日~8日 (ノビエ2.5葉期まで)

※除草剤処理後1週間は田面が露出しないようにすると効果が安定する。

#### ④穂揃期防除 次のいずれか1つを散布

名称	10aあたり使用量	使用時期	対象病害虫
キラップ粉剤DL	3~4kg	収穫14日前まで	カメムシ類、ウンカ類
キラップ粒剤	3kg		
キラップフロアブル	希釈倍率1000~2000倍 散布液量60~200ℓ		
スタークル豆つぶ	250g	収穫7日前まで	
ヘリ防除(キラップフロアブル)		収穫14日前まで	

必要に応じて次のいずれか2つまで散布できます。  
○補正防除 (※クリンチャーバスまたはワイドショットを散布する場合は、他は使用できません。)

名称	10aあたり使用量	対象雑草	使用時期
※クリンチャーバスME液剤	1000ml / 水70~100ℓ	ノビエ 広葉雑草	田植後15日~ノビエ5葉期 但し収穫50日前まで
※ワイドショット1キロ粒剤	1kg	カヤツリグサ ホタルイ	田植後15日~ノビエ4葉期 但し収穫45日前まで
クリンチャーEW	100ml / 水25~100ℓ	ノビエ	田植後20日~ノビエ6葉期 但し収穫30日前まで
クリンチャー1キロ粒剤	1kg		移植後7日~ノビエ4葉期 但し収穫30日前まで
バサグラン液剤(ナトリウム塩)	500~700ml / 水70~100ℓ	広葉雑草 カヤツリグサ ホタルイ	田植後15日~55日 但し収穫50日前まで
バサグラン粒剤(ナトリウム塩)	3~4kg		田植後15日~55日 但し収穫60日前まで
リンパー粒剤	3~4kg	紋枯病対策	収穫30日前まで
バリダシン粉剤DL (使用しても化学合成農薬成分にカウントされません)	3~4kg		収穫14日前まで
葉いもち	穂いもち病対策の剤(コラトップ(初発10日前~初発時)、ゴウケツ、ビーム)を使用		

### 〔スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策〕

(使用しても化学合成農薬成分にカウントされません。)

名称	10aあたり使用量	使用方法	備考
スクミンバイト3	2~4kg	湛水散布	浅水にして、水口、深いところ等タニシの集まる所にスポット処理も有効

その他対策: 生貝の捕殺、卵塊の圧殺、取水口への網設置、浅水管理、厳冬期の耕起等

#### ○施肥基準

時期	すき込み時のレンゲの生育状況	基肥	穂肥
4月下旬~5月上旬(開花最盛期、田植1カ月前)	すき込み	福岡嘉穂ユークン2号(10aあたり)	油粕ベレット10aあたり50kg
施肥	レンゲがほ場の100%~70%以上生えている	施用しない	時期: 出穂28~25日前(幼穂長0.2~0.5mm)施用
	70%未満~20%以上生えている	10~15kg(側条施肥:10kg)	
	20%未満しか生えていない	15~20kg(側条施肥:10~15kg)	
	レンゲは、ほ場の2割くらい生えている、またはほとんど生えていない	30kg(側条施肥:25kg)	

#### ○レンゲの栽培

- は種 10月下旬~11月上旬 (病害虫対策のため早播きはしない) 3~4kg/10a
- は種量 (湿田、遅播きは20~30%増量) (湿田はは種後排水溝を掘る)
- ・酸性土壌に対しては弱いので、pHは6.0以上が望ましい。
  - ・種子が小さいためは種床の凹凸が大きいと発芽や生育にムラができやすい。地表面を均平にする。
  - ・種子に傷を付けると吸水が早くなり発芽や生育がよくなる。
  - ①容器に種子と同量の砂を混ぜて砂付きする。
  - ②コンクリートの上に種子を置いて軽く板で押さえこする。
  - ③還流式小型精米機で、10~15分間磨る。
  - ・は種時には場が乾燥しすぎると、発芽が悪くなるので、は種は耕起後では、雨が降る前日または雨が降った翌日に行う。

#### ○すき込み

- ・すき込みは、4月下旬~5月上旬のレンゲの開花最盛期頃に行う(田植1カ月前が目安)。
- ・すき込んで1週間以上は水を入れない。
- ・5月上旬頃の花が満開直前の時、レンゲの窒素成分が一番多くなる。
- ・すき込む時期が遅くなるほど窒素成分は少なくなる。
- ・すき込む時期が田植に近くなるほどレンゲの分解で酸素不足となり苗の活着が悪くなる。

### 特裁米の条件

※こよみに記載している肥料、農薬以外は使用できません。  
※こよみ以外の肥料、農薬を使用した場合は必ず報告して下さい。(県認証より除外します。)

肥料・農薬・生産資材の購入はJAから!! 生産履歴は必ず記帳しましょう。